

日本 ハンザキ研究所ニュース 2012(7) : 通巻 No. 79



発行2012年7月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

クマネズミ

ハンザキ研をめぐるネズミ類については、これまでも再々「小ネズミたちとの知恵比べ」といった話をハンザキ研ニュースに書いてきました。しかし、今回の大ネズミ騒動には閉口しました。我が根城である教員宿舎内を始めとして、校舎内外にコメ粒よりも一回り大きな糞が目立ってきました。それと同時にグラジオラスの球根があちこちに移動したり引き戸がかじられたりし始めたのです。今までにないことで、何者がやって来たのかと無人カメラをしかけたり特許を取ったといい加減なことを言いながら自慢にしていたペットボトル型ネズミ捕りを多数仕掛けたりしても一向に犯人が分かりませんでした。結局、市販のオーソドックスなネズミ取り機に大物がかかったのです。その正体がクマネズミだったのです。大きな耳が特徴的だと三重の清水善吉さんからのコメントでしたが、2分ほどでおとなしくなりました・・・???



大きな耳が特徴のクマネズミ

驚いたことに、ホルマリン浸けの標本が入ったプラスチック瓶までかじりまくっていたことがわかりました。

新品の瓶もかじられており、被害は十数本に及んでいました。プラスチックが旨いわけではないので、歯を磨くためなのかもしれませんが大きな迷惑でした。大型のネズミは当地にも居ると聞きましたが、私としては7年間の当地での生活で初めてのことでした。1匹だけのことはないので思いましたが、その後は大きな糞も被害も見当たらないことですので、この1匹だけのことだったようです。どこから来たのか？と考えますと、宅配便の車かなとも考えられます。その昔、娘が学生寮から衣替えで送って来た段ボール箱の中から数匹のゴキブリが飛び出して来たことを思い出しました。こんなことで生き物たちは生息域を広げているのでしょう。



写真1 かじられまくった標本瓶



写真2 かじられたプラスチックと大きな糞



写真3 脱走ルートはハイ・ジャンプ



写真4 換気扇に金網を取り付けて封鎖成功



写真5 ヤマビルに胸をやられました



写真6 ヤマビルにやられた跡



写真7 カジカガエルがこんな体色に



写真8 校舎の廊下に水が湧く



写真9 小さなランの花?キササゲ



写真10 ササゲ豆のようなキササゲの実



写真11 ポンプピットの排砂作業



写真12 連絡を受けたハンザキの死体

円山川水系におけるオオサンショウウオ事情⑨

会員 加賀見 省一 (但馬国府・国分寺館)

夏休み最初の日曜日となった7月22日、豊岡市出石町柳・松枝の谷山川(出石川支流)で、「環境ネット出石」主催の谷山川ウォッチングが行われ、60人を超える親子連れが参加しました。子どもたちが、玉網を片手に川の中の生きもの調査をしていたとき、何と、オオサンショウウオが出現したのです!

私はそんなことも知らず、昼休みに自宅に戻り、昼食を食べはじめたときにコウノトリ共生課の職員から携帯に電話がありました。「漁協の人から、出石町の川でオオサンショウウオが見つかった」と、いう内容でした。「今から行くので待ってもらうように頼んで」と、言って電話を切り、食事を中断、職場に戻って現場に向かいました。

現場は、出石の街中、川に到着すると、多くの子どもたちが川の中を覗き込んでいます。川に下りて、石と水草で囲ってあったオオサンショウウオを確認、全長と体重を測定し、写真撮影を済ませます。マイクロチップの読み取り機でチップの有無を確認したところ、すでに挿入済みでした。チップ番号を読み上げ、同行の職員がメモ用紙に記帳、再度確認をして、現地で放流しました。主催者の方の話では、「もう10年近く川づくりに取組んでいるが、オオサンショウウオははじめて見た」と、驚きの様子です。この日は、円山川漁協の方々もフナの放流や、調査の協力をされていたこともあり、知り合いのコウノトリ共生課の職員に連絡をいただきました。

見つかったオオサンショウウオは、全長775^{mm}、体重3.65^{kg}でした。職場に戻り、チップ番号00066E2CC7で検索したところ、2005年8月12日に豊岡市但東町久畑の薬王寺川(出石川支流)で発見・保護され、2008年3月2日に但東町久畑の高橋小学校前の出石川で放流されたNo.274の個体であることがわかりました。放流前の2008年2月に計測したデータを見ると、全長680^{mm}、体重1.8kgでしたので、4年5ヶ月で全長が95^{mm}、体重は1.85^{kg}も?成長したことになります。

放流が行われた高橋小学校は、今回の発見場所から20km以上も上流にあり、この間を移動したことになります。実は、2年前に出石町福住の奥山川で保護した個体も同じ高橋小学校前で放流されたものです。そのときの個体は、2007年5月17日に但東町久畑で保護されたときの全長が640^{mm}、体重2.17^{kg}、2008年5月26日の放流時が660^{mm}、2.05^{kg}、2010年8月6日に保護したときが全長675^{mm}、体重2.35^{kg}でした。両者を比較すると、今回保護した個体の成長が早いことがわかります(ハンザキ研ニュースNo.57 円山川水系におけるオオサンショウウオ事情②)。同じ河川で生息していても、個体によって成長に違いが見られます。また、自らの意思で移動したのか、増水で流されたのか、それ以外の原因によるかはわかりませんが、20kmを超えるような移動も決して珍しいことではないのかも知れません。



池田動物園長の死去

池田隆政さんが7月21日に85歳で亡くなられた。平成天皇の義兄（昭和天皇の四女厚子さんと結婚）に当たる方で1953年に岡山県で池田動物園を開園し60数年間園長を務められ、1995～2004年まで日本動物園水族館協会の会長も務められた。江戸時代の岡山藩主第16代に当たるそうである。牧場の経営から動物園を立ち上げられて「50年以上園長を務めているのは僕だけだよ」と笑っておられた。日動水の会長として10年間存在を示されていたが、毎回の挨拶の中で数字や煩雑な名称などで言葉に詰まられると「ムニャムニャ・・・」とはっきり言われて後を続けて堂々と挨拶を終えられていたのが印象に残っている。ムニャムニャで済んでしまうところはカリスマ的で素晴らしいと思う。私などは詰まったら大混乱して後が続かないところである。平成13年に私が姫路市立水族館と新設の島根県立宍道湖自然館の館長を兼任したことが、日動水の理事会で問題視されたようだが、池田会長に「誰かに何か言われたら会長に預けている」と答えておけばいいと言っていた。

何が問題であったのか分らないところであったが、日動水の会員が園館長個人名で登録されていることにかかわりがありそうだ。施設名ではないので、一人の人間が二つの施設の長になると会費が一人分で済むことになりかねないからかもしれない。今では公の施設の管理が民間に委託されることがあるので、二足のわらじを履くこともあるようだが、姫路市の館長がなんで島根県の館長を兼任するのかと島根県庁記者クラブでも疑問を投げかけられた。姫路の水族館を一度見てみていただけると回答になると思います。

.....

ハンザキ所長の自慢話②

二つの公立水族館の館長を兼任

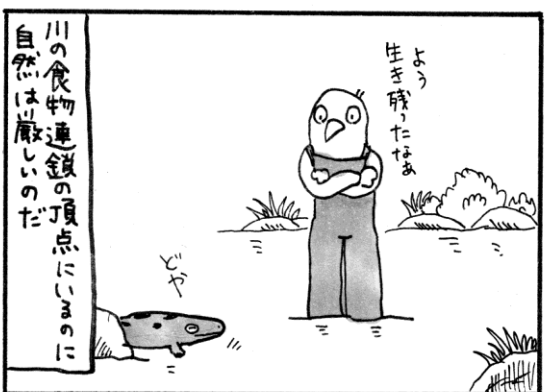
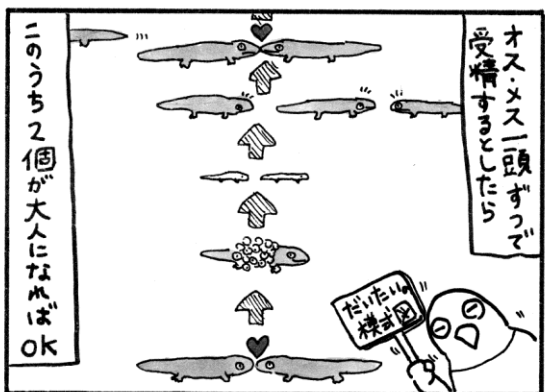
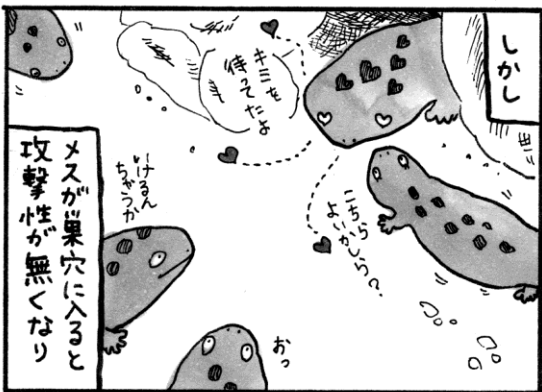
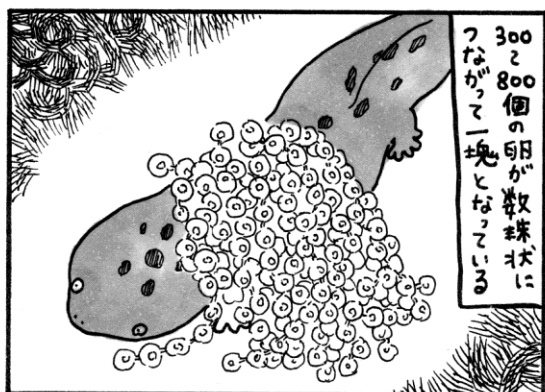
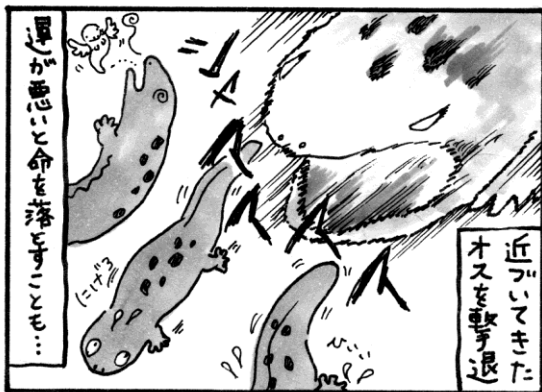
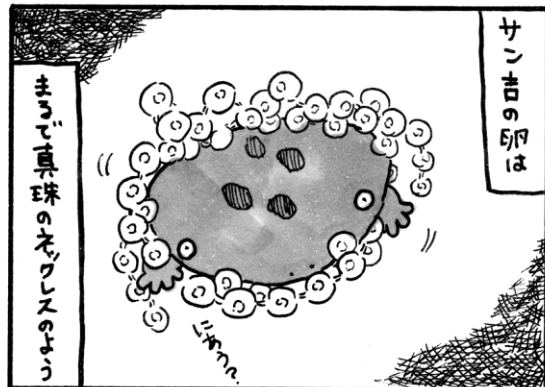
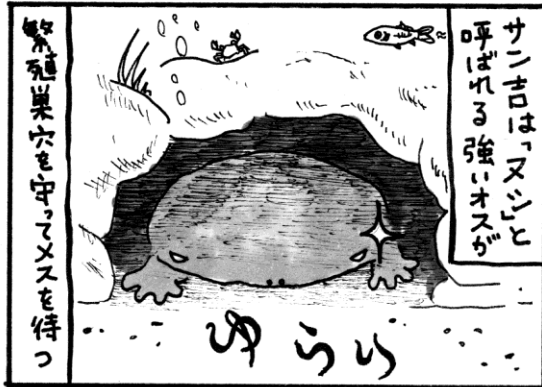
平成13年3月で私は姫路市役所を定年退職した。退職後は元気が残っているうちに姫路を基点にハンザキの生態調査をもう少しやっておきたいと考えたので、姫路市の嘱託を希望した。水族館には嘱託のポストが無いから残ることはできないよと人事担当者と言われていたが、全く別の部署の経験もいいのではないかと考えていた。そこに島根県から翌年4月にオープンする宍道湖の施設の嘱託館長の要請が来た。週に3日勤務ということだったが、姫路市の嘱託は週に4日の勤務であり、休み無しということになってしまう。新規開館の施設も魅力であるし、もう少し水族館での活動もしたい気持ちもあったので、月に3日の勤務と随時イベント参加という形で受諾した。姫路市の方は3月市会が終了した20日過ぎに勤務先の内示が出されたが、嘱託水族館長ということであった。という経過で名刺の裏表に別々の水族館名が書かれることになったのだった。多くの方々が「なんで？」という疑問を投げかけてこられたが、ただそれだけのことだったので。きっと姫路市の方でも他の部署では使い物にならないと判断されたからなのでしょう・・・



その11 繁殖行動



その12 卵



サン吉: オオサンショウウオ
川にすむ王様である



トリ子: トリ型宇宙人
地球を征服するべくサンの
生命をさぐっている

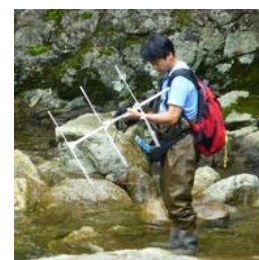
今月のハンザキ調査から

1975年からの調査ですが、水族館現役時代には日帰りか1泊2日の調査ごとに結果を整理し報告書を作成してしていました。ところが、ハンザキ研にこもったままですと切りが付きませんので、月ごとに整理することにしました。今月で328回目の調査になります。現役時代には1年に1回しか調査に出かけることができなかった年もありました。しかし、とにかく継続させてきたことが大きな成果ではないかと考えています。38年目になります。1555個体を登録し、その内900個体にマイクロチップを打ち込むことができました。目下1000個体のチップ登録を目指して、後輩への遺産としたいと思っています。

さて、今回から月ごとの調査状況をまとめながら皆様へもお伝えしていこうと思います。基本的には毎晩ビールを呷りながら観察カメラの映像をパソコンの画面で見ているだけで、こんなにいい立地条件の場にながら現場に出かけないという、これまでの私を考えると何とも怠惰な毎日を送っています。その代り、岡田純副理事長（日本オオサンショウウオの会副会長）や田口勇輝会員（広島市安佐動物公園）などの若い力が精力的に私のフィールドで成果を上げてくれています。

今月は6日の夜に田口会員と吉田博一（鳥取大院生）会員が魚ヶ滝地区で36個体を測定し、内2個体にマイクロチップを挿入しました。残りの34個体の中でNo.110は7年7か月振りに12回目の測定で35年7か月の追跡になりました。最初に登録されたのは1976年12月のことですから、調査開始2年目の個体です。この間に全長が690^{ミリ}から860^{ミリ}になりましたが、19^{センチ}の成長しかありません。こののんびりした成長の仕方では150^{センチ}になるのには何年かかるのでしょうか？そのほかにもNo.123が35年2か月（685^{ミリ}から1,040^{ミリ}）No.223が33年10か月（710^{ミリ}から835^{ミリ}）などの古つわものが含まれていました。ご両人が生まれる前から生きているハンザキです。

21日には岡田さんが横田寿男（環境省近畿地方環境事務所）さんや山崎寛子会員（サイトウコンサルタント）安原3兄弟（団体会員ネット）と共に人工巣穴が4基設置されている簾野地区で繁殖期の行動調査として電波発信機を装着しながら8個体の計測をしました。1個体が新規登録で、魚ヶ滝地区は1975年から、簾野地区は1978年からの調査です。



電波発信機での調査

27日には田口会員が愛子夫人と調査に入り15個体の計測をしました。内3個体にマイクロチップを入れました。この新人たちは全長565,590^{ミリ}というサイズなので新規参入群かと期待できますが、925^{ミリ}の個体は私たちの38年余の調査を免れていたのか上流域からの流下個体なのかもしれません。

28日には15組35名とスタッフ12名の参加があった夜間観察会で4個体を計測しました。ここは市川水系の最上流部になる黒川本村地区で、主調査地としては4番目でまだ7年程ですので最長追跡個体でも13年ほどです。この他にもNo.898が水遊び中の若い二人（昨年観察会参加者）が死体を発見して連絡いただいたものです。7年1か月で97^{センチ}からプラス2^{センチ}でした。

ハンザキ研日誌

2012年7月

- 7日 ・事務局会議9名出席
・会員の田口勇輝・吉田博一両氏が魚ヶ滝で夜間調査、36 個体測定
- 10日 ・大阪府安威川ダム建設所一行5名見学に来所
・キノコ調査 (横山先生他5名)
- 11日 ・箕面観光ボランティアの一行3名見学に来所
・兵庫県自然環境課より3名視察に来所
- 14日 日本工科専門学校実習に来所 (田中先生と学生8名)
- 17日 ・キノコ調査 (横山先生他5名)
・大阪府安威川ダム建設環境委員会へ出席
- 21日 第2回ボランティア作業実施、5名
岡田副理事長ほか夜間調査で8 個体測定
- 24日 ・兵庫県やまびこの郷生徒10名と引率6名見学に来所
・アノコ淵の第2夜間照明灯完工
- 25日 オオサンショウウオ保護センターのポンプ・ピットに排砂ポンプつりさげ用の
H鋼取り付け工事完了
- 26日 神戸市鶴甲学童保育30名と付添6名見学に来所
- 27日 朝来市立生野中学校丸山教頭見学の事前打ち合わせに来所
田口勇輝会員ほか夜間調査で17 個体測定
- 28日 オオサンショウウオ夜間観察会実施 (参加55名とスタッフ13名) 5 個体測定
- 29日 ・兵庫県生物学会副会長の前田先生他5名見学に
・香川県の白井一家昨夜の観察会に続いてハンザキの勉強に来所
- 30日 ・鳥取県から収容のハンザキ1 個体死亡、死因不明。
・関西電力黒川ダム湖内のハンザキ調査開始～8月1日まで3夜
- 31日 キノコ調査 (横山先生他6名) タマゴタケの標本

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

ニュースの原稿を書くのも出来事から早ければまだ印象が強く残っていて筆が進むが、11月の終わりになっては思い出すのが大変だ。そこでできるだけ多くの方に原稿を寄せて頂けるようにしたいと考えている。今月号は田口会員から“今月の調査から”といったタイトルの提案があったので早速報告書を繰ってみた。30年を超える追跡期間になるのは登録された1,555 個体の中で8 個体のみであるが、野生の動物をこれだけの長きにわたって追いかけた例はあるのだろうか？後16年ほど記録を伸ばすことができればシーボルトの51年間飼育という記録を更新できるのだが、私には難しそうだ。若い人に任すしかない！